

心耕

11月号

去年は百箇近く実を付けた柿の木。今年は一
も実らない。いいえ、去年と一実っておりまし

6 6 3 5

西光寺夕刊

今月の行事

築地本願寺報恩講

十日〜十六日

※個人参拝は何日でも可

・西光寺からの団体参拝

◎ 十二日 西光寺出発 午正八時

・参りは午後四〜五時頃

・西光寺報恩講

二十五日(金) 午後一時より

二十六日(土) 午前八時・午後一時

二十七日(日) 午正十時

・御講師 朋澤知弘師(昨年と同じ)

・勉強会 二日(木)午後六時。写経会 十日(金)午正十時

21日(印) 10時 お磨き 加勢 御朝長朝 6時 御朝長朝

築地本願寺での会議や顔と合

せて出来るようになり、終わって

からのカラオケ店での一杯を楽し

みにしていたが、コロナの影響で

なじみの店を閉ま、てしま、てい

る。新しく店を探すが起きず

いたが、知り合、た方がなじみの

店に案内してくれた。ま、なじめ

ない。

ギヤバウラに二十年程前に一度

行ったが、帰り際に、「おな、又

来る?」とカタコトの日本語で聞

かれたが、「もう来ない」とたえ

てそれっきり。

どうも若い女の子の店に行っ

て居心地がよくない。放、てお

て好きなあつ、飯まで、歌、せて

くれる店が一番いい。余り高、くも

ないし。ナンコンダブナマンダブ

たとえ一人になろうとも

仏はあなたと

共にある

雪山隆弘

生きていけば様々に悩むし不安にもなる。時には不

安が苦しみにもなる。だが未来や将来というものが望

める場所に居れば、「明日があるさ明日がある 若い僕

らにや明日がある…」、などと呑気に歌って過ごせるか

もしれないが、歳は取ったし欲を張る元気もない。何も

かにもが八方塞がりでお先真つ暗、もうどうしようも

ない。あーあ虚しいだけの人生かななどと虚無の淵を

彷徨うだけの自分の姿に一層肩を落とす。溜息だけが

道連れかと、人に向けた笑顔の裏で思ったりもする。

やつと気づいたかい。若さという免疫を失った自分

あ。 というものの儂さ弱さ。 やつと一人前になりましたな

南無阿弥陀仏をとなふれば

炎魔法王尊敬す

五道の冥官みなどともに

よるひるつねにまもるなり

南無阿弥陀仏をとなふれば

親音勢至はもろともに

恒河産鼓の菩薩と

かげのごとくに身にそへり

親鸞聖人のご和讃（現世利益和讃）です。

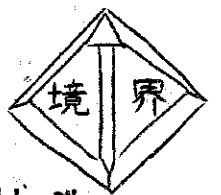
阿弥陀仏の願いがどんな時、どんな場所へでも必ず

届いてくださってあることをナンマンダブナマンダブ

と頂いていくばかりなのです。

境界

前回「境」について書かせていただきました。我々の世界を構

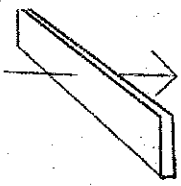


築しているものは、我々の認識で成り立っているというものでした。私の認識で成り立ちますので、千差万別です。見えるものは同じでも違う認識で感じているのです。このドラマは面白い、面白くない。これも認識によって違います。

今回ご紹介の「境界」は、その認識の範囲のことを指します。仏教では「きょうがい」と読みます。範囲といいますが、心の範囲もありますので、ここからここま

で見えるものだけではありません。そして、私の境界と人との境界が触れ合うところを縁と呼びました。現在の家にはなくて、昔の家に有ったもの。それは縁側です。そこでは、土地の境界線は消えて、人と人とを結ぶ大事な場所でした。

私が作り上げた境界が妨げとならず、私に届けられる阿弥陀如来の慈悲の光を、無碍光といえます。煩惱に迷う私の認識で見ることは困難ですが、それが妨げとならないのです。



正しさを他人に伝える時は、舌を空けて半分くらいの執着量があるように、おぼ

こんなところに 仏教用語

教誨

刑務所などで、受刑者に教えをさとす人を教誨師と言います。戦前までは公務員扱



いでしたが、戦後は国から手当てが支給されることはなくなり、無給ということも相まって、仏教界では規模の大きな東西本願寺が中心となり活動をしています。

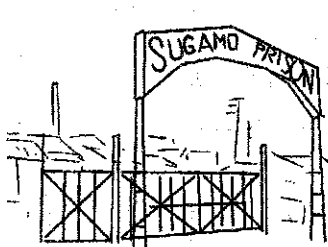
戦後、教誨師として東条英機氏などのA級戦犯の処刑に立ち会ったのが、本願寺派僧侶花山信勝師です。GHQの要請により、比較的若い僧侶を求めていた師に役割が与えられました。最初は念珠を持つことも拒否をしていた東條氏も、罪を悔いつつ、阿弥陀如来の慈悲に照らされていることを慶び、

「さらばなり有為の奥山けふ超えて
弥陀のみもとに行くぞうれしき」

と辞世の句を読みました。

私は仏教学院での授業で教誨師の先生から話を聞く機会がありました。「相手に更生を願うならば、こちら側がまず、許すという前提がなければならぬ。罰するだけでは更生はない。これは刑務所だけではありません。会社でも家庭内でも同じです」と。

身近な仏教用語を紹介しています。



『大経』九

今回までが大経の序になります。今回は特に「發起序」と言われる部分です。前回まではどんな有情でも必ず育てて救うという目的を私達凡夫に示されたところでした。ここで釈迦様が登場し、救済の実現に向かうスタンスの説明が始まります。親鸞聖人が「教の巻」で『教行信証』全体を貫こうとした『大経』の輝きの部分です。

先ずは阿難「今日は・・・光顔巍巍います・・・どうしてですか？」釈迦「誰かに言われたのか？」阿難「いいえ。私自身の所見です。」釈迦「善いかな・・・衆生を愍念せんとしてこの慧眼を問えり」と阿難の慧眼が示されます。ここをもって聖人は釈迦が出世した本懐の経であると示されています。

この中で「今日」が大事なキーポイントであります。昨日でも明日でもありません。今なのです。阿難は『小経』では釈迦の自問自答を聞いていただけ、『観経』では「名号を持って」と言われてもピンとこなかったが、今日のお釈迦様はキット大事なお話をされるということに違いないと気付いたので、今まで説法の場面と一線を画す釈迦自身の状態の違いに、阿難が五つの奇瑞をもって示します。これを「五徳瑞現」と言っています。「今日世尊住奇特法 今日世雄住仏所住 今日世眼住導師行 今日世英住最勝道 今日天尊行如

来徳」と五つの呼び名と徳で表されています。因みに本願寺派では「無量寿経作法」の時に謳われる部分です。

「奇特法」は奇妙で且つ特別な状態を言い、不可思議な力を意味し、「仏所住」は諸々の仏の境地の事、「導師行」は有情を導くための行いです。「最勝道」はこれ以上の物はないという教で、「如来徳」は前の四つに住している事を総合した自利利他円満の事を言います。阿難はこの瑞現を示して「仏仏相念」と過去現在未来の諸仏は「世に出興するゆゑは、道教を光闡して群萌を拯ひ、恵むに真実の利をもつてせんと欲してなり」と常に通じ合っていると云います。私の法名はこの◎部分が出所です。真宗では「臨終まつことなし」で法名は早めに頂きましょう

さてこの序の最後に阿難を通じて私たちに呼びかけています。釈迦「阿難、あきらかに聴け、いまなんぢがために説かん」阿難と強く呼びかけています。今、お前たち凡夫の為に話すので能々聞くのだよと言っているようです。それに対して阿難「やや、しかなり。願樂して聞きたてまつらんと欲ふ」と再確認しています。自分の慧眼に満足して、この短い対話中でも聞きそびれていたのだと思います。漢文では「願樂欲聞」とあり、ただただ願うのは聞くことを欲することである。つまり常に聞法を心掛けなさいということであろう

法座案内

十二日(土)

築地本願寺報恩講参拝

十一月は、築地本願寺へ団体参拝です

西光寺報恩講

二十五日(金) 午後一時～

二十六日(土) 午後一時～

二十七日(日) 午前十時～

講師 朋澤智弘師

(島根県鹿足郡誓立寺)

報恩講って?

浄土真宗を開かれた親鸞聖人のご法事です。この報恩講は1年で最も大切な行事です。お参りに条件、制限はありません。どこか一日でもお参りするよう心がけましょう。

今年もお斎無しの法要、法話のみの開催です。

*感染症予防にご協力を

各種ご案内

・お朝事

毎朝六時半～七時、お勤めをしています。日々のお参り、命日などにお参り下さい。

・草取り

冬期休暇に入りました。三月から再開です

・写経会

二十日 十三時～十五時 どなたでも

・壮年会・婦人会主催の勉強会

壮年会 二日 十八時～ 十二月は七日

婦人会 休み

・門信徒会費 口座振込先

振込番号です ゆうちよ銀行

西光寺門信徒会 00180-0-713424

会費 年間一万二千元

・おみがき

仏具を磨きます。作業は難しくありません。一緒に本堂をきれいにしましょう。

日時 二十一日 十時～十二時 弁当付

・心耕発送者募集!

心耕(月刊西光寺新聞) 発送作業をお手伝いいただける方を募集します。

形態:三カ月に一度 主に月初めの平日 時間:一〇時～一二時 特製ランチ付

・西光寺公式アカウントが出来ました

西光寺のライン用アカウントが出来ました。お寺の行事などを配信予定です。

ラインをされている方は、左のQRコードから登録してください。



・西光寺チャンネル新作動画配信

YOUTUBE の西光寺チャンネルにて節談説教「carry on 南無阿弥陀仏石碑の由来」の動画を配信

西光寺チャンネルで検索か、以下QRで



・感染症対策について

37.5℃以上の発熱、咳が出る方はお参りをお控え下さい。マスク着用、消毒にご協力下さい。法座等の集まる行事では、念の為、氏名をご記入頂く場合があります。

住職多感

世界中が激しく変わって、それも悪い方へ変わっていくように見えてくる。どんな時代も大変だったのだと思おもするが、これほどひどい時代もそうはなかったろう。

うんにや、違うぞ。毎日のお正信偈に、一生造悪値弘誓 至安養界證妙果とあるのを忘れたか。

そうは言っても・・・

そうだ、ひどいことはいくらでもある。例えば柿の木。去年はあれほどなつたのに、今年はたった一つ。それでも柿の木の中では冬を越すために葉を落とし春を迎える準備怠りなく用意しているぞ。

それは柿の木の話しじゃ。

そこよ、人間の悪いくせ。同じ生き物であるのに自分たちばかりが特別なもんだと思ひ込んでいる。

昔こんな話がある。

ある晴れた日、お百姓の門衛門（もんえもん）さんが歩いておりますと大きなミミズが道の真ん中にデンと寝そべっている。聞衛門さんは大きな声で言った。「こりゃあミミズ、お前のような頭も尻もわからん奴が、こんな往來の真ん中で威張りくさって。お前のような奴は路傍（みちばた）の草の下の泥の中で一生出てくるな」。それを聞いた大ミミズは、「何イ聞衛門、お前こそ何だ。上から読んでももんえもん、下から読んでももんえもん。尻も頭もないくせに」。

話はこれだけ。

小学校の時に聞いた話で、今もって忘れない。面白かった。

良くも悪くも自分（自分たち）は特別だと思ふクセ、仏さまも目にはそれこそ煩惱というんでしような。

十二月の予定

十二日 常例法座

二十五日 日曜法座

※詳しくはまた

来日コラで

おあさじいっも
ごおり

発行

浄土真宗本願寺派(西)

西光寺

〒二九〇〇〇二四

千葉県市原市根田

七三三二

TEL. 0436-22-7412

FAX. 0436-24-1652

HP. <https://www.saikohji.net>

MAIL saikohji@hb.tpl.jp